

菩提樹信仰について

お釈迦様が悟りを開くとき、菩提樹の下でお座りになりました。過去の仏陀たちも何かの樹の下で瞑想に入り悟りを開いたというのは仏伝の話です。したがって、仏陀の正覚と菩提樹は深い関係があるのだと信仰されています。

お釈迦様は悟りを開いてから一週間も菩提樹の下で禅定（滅尽定）に入られていたのです。二週間目は、「私はこの木のお世話になりました。感謝の意を示さなくてはならない」と思い、七日間、お立ちになり、菩提樹から少々はなれて、菩提樹の方に目を向け、禅定に入っておられました。お釈迦様にも尊敬されたのだということで、仏教徒は菩提樹を大事に信仰しています。（相手は、例え樹であっても、お世話になったら、感謝しなさいというメッセージかもしれません。また、大事にするべきものは、生命だけではないのだというメッセージでしょう）

樹の本名は何であろうとも、仏陀がその樹の下で悟りを開いたら、その樹は「悟りの樹」になるのです。菩提＝悟りです。

お釈迦様の希望が叶ったときに支えになったこと、お釈迦様にも感謝されたことにちなんで、現在まで、菩提樹は仏教徒の信仰の礼拝対象になっているのです。お釈迦様を尊敬する場合は代表のシンボルとして、仏像、仏画などを使いますが、それは、決して、実際のお釈迦様の姿ではありません。作家のイメージです。しかし、菩提樹はそうではありません。また、菩提樹は生きているものです。生きているお釈迦様を念じて、礼拝したくなった場合は、対象になるのは菩提樹です。

菩提樹は観葉植物になってはならないのです。ほかの植物と同じ扱いもよくないのです。お釈迦様の代表、又は、お釈迦様が悟りを開いたとき、そばにいて、お世話した聖樹という気持ちを持たなくてはなりません。

愛着ではなく、敬愛です。生きている植物なので、お世話をするのは当たり前ですが、同時に「ご本尊」のお勤めという気持ちも大事です。出来れば、地面に、床にそのまま置くのではなく、腰あたりぐらいの高いところが望ましいです。（地面に植えられる環境であるならば、それなりの、植物たちの長という気持ちを表現できるように）

ご利益：

菩提樹を尊敬することで得られると信仰されている、ご利益があります。

祈願成就：

偉大なるお釈迦様の祈願が成就することの助けになったので、我々の日常の様々な祈願も成就してくれるのです。（非論理的、強欲な祈願ではありません）たとえば、試験合格、面接は受かるなどです。

また、病気になった場合も、早く治りますようにと、菩提樹に祈願するのです。特に、病気の場合は、菩提樹に供養するのが普通の習慣になっているのです。

菩提樹が健康で成長しているということは、そのお世話する人々にも幸福があるのは当たり前ということだそうです。何か悪いことが起こりそうな気配があると、菩提樹の健康状態で、先に推測することができます。その場合は、菩提樹を拝んだり、慈悲の瞑想をしたりして、危機をさけられます。

菩提樹の健康を維持するため以外、枝を取ったり、剪定したりしてはなりません。王様なのでご自分の好みで成長するようにします。大体は、問題になるように勝手に成長することはありません。樹の治療をする場合なら、剪定は OK です。

以上

供養する方法：

普通の仏像と同じです。生きているお釈迦様だとイメージすれば、結構です。それなら、自分好みの供養もできます。